

2023 度 事 業 計 画 書

(2023 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日まで)

特定非営利活動法人団地ライフラボ at 茶山台

I 事業の実施方針

「日本一、多様な幸せを実現できる団地」をめざして、初年度にできた居場所を通して、住民さんのニーズの把握及び分析を行います。また定期的に実行会議の開催を行い、関係機関との連携に努めます。

2023 年度は、「みんなの保健室の運営及び様々な取り組みの試行期間」として PDCA を回します。

具体的には、柱1 “高齢者が対話、コミュニケーションが取れる環境の整備”に向けて、健康づくり拠点となる場を構え、機能として、①健康相談、②専門職や支援につながるコンシェルジュ、③持続可能な運営に向けた拠点展開をめざします。次に柱2 “家庭・学校以外の第3の居場所がある状態”に向けて、集会所を活用して、子どもの居場所について試行します。次に柱3として、“必要な住民さんに情報が届く媒体ができていく”に向けて、広報媒体（HP やニュースレター）の作成・発信、関係機関とつながる・課題を聞く場として、大交流会や円卓会議を開催します。最後に、柱4 “住民さんのニーズを把握し、柱①と②に生かす情報を得ている状態”として、居住者の暮らしに関する実態調査の実施を行います。

それらを通して、「社会的孤立状態」にあるコミュニティ参加の仕組みが整い、ここで暮らしてよかったと思う人が増える団地を目指して、必要な取り組みや、ソーシャル団地を整備していくための課題などについて検討を始めます。

事業を実施するだけでなく、その事業を実施するための事務局や事業担当者など、組織づくりにも努めます。助成事業が終わる 2024 年度末までに、2025 年度以降、持続可能な組織として運営していくことができる体制を整えます。

II 事業の実施に関する事項

1 特定非営利活動に係る事業

(1) 団地再生事業区域の地域づくりに関する調査・企画事業

【内 容】 ①公社茶山台団地内の空室を活用した「健康づくり」拠点にて3つの取り組みを始め、「高齢者が対話、コミュニケーションが取れる環境の整備」をめざす。

<健康づくり拠点機能>

1. 健康相談

日常の対話から、日常の変化に気づく相談窓口

2. 専門職や支援に繋ぐコンシェルジュ。

まちかど保健室や地域包括支援センター、社会福祉協議会、行政などへ必要であれば、繋ぐ。

3. 持続可能な運営に向けた拠点展開

<プログラム>

1. 健康相談の開催

2. お片付け相談

3. 居場所の拠点提供

②子どもの居場所についての取り組みを始め、「家庭・学校以外の第3の居場所がある状態」をめざす。

1. 7棟集会所を活用した子どもの居場所の試行を行う。

<プログラム>

1. 学習支援&夜ごはん

2. 駄菓子屋&子ども食堂

③居住者の暮らしに関する実態調査の実施を行い、「住民さんのニーズを把握し、上記①・②に生かす状態を得ている状態」をめざす。

1. 全住民に対して「居住者の暮らしに関する実態調査」+今後、必要になってくるだろう、小さなコミュニティビジネスに反映できるニーズを確認するアンケート調査を行う。

【実施場所】 公社茶山台団地内の空室・公社茶山台団地7棟集会所

【実施日時】 随時

【事業の対象者】 茶山台団地住民及びその周辺の住民

【収入】 11,095,920円（寄付金収入 80万円+助成金収入 10,295,920円）

【支出】 10,765,920円（人件費 5,344,800円+事務委託費 1,710,000円
+器具備品費 1,550千円+備品消耗品費 450千円
+賃借料 120千円+通信運搬費 36千円+地代家賃 120千円
+水道光熱費 90千円+事務消耗品費 120千円+雑費 180千円
+業務委託費 1,000千円+支払手数料 45,120円）

(2) 団地再生事業区域に必要なコミュニティビジネスの創出事業

【内容】 2023年度は実施しない。

2024年度実施に向けての準備を行う。

(3) 団地再生に関する情報収集及び広報活動事業

【内容】 ①茶山台校区内の取り組みについての情報発信を行う。

②関係機関と繋がる・課題を聞く交流の場、もしくは円卓会議を行う。

【実施場所】 ①インターネット上、もしくは紙ベース

②茶山台校区内

【実施日時】 随時

【事業の対象者】 茶山台団地住民及びその周辺の住民

【収入】 2,715,000円（助成金収入）

【支出】 2,715,000円（業務委託費 1,500千円+印刷製本費 110千円
+給与手当 900千円+デザイン委託費 180千円+会議費 24千円）